

宍道湖の令和元年度水質測定結果及び水質浄化対策推進状況

1. 令和元年度水質測定結果について

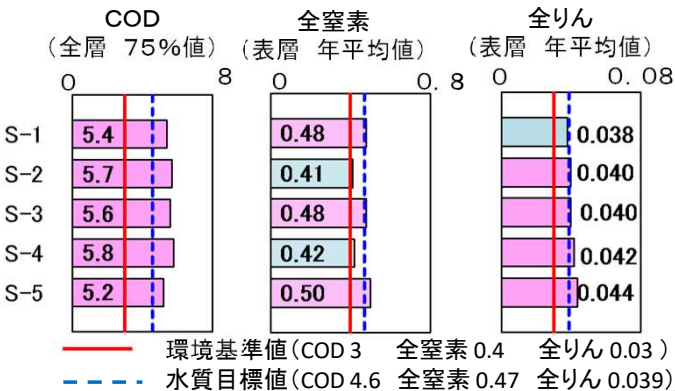
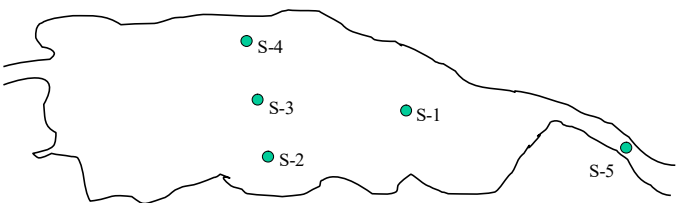
(1) 環境基準等の達成状況について

- 環境基準点5地点における水質測定結果は、COD(化学的酸素要求量)、全窒素及び全りんについて、いずれの項目も環境基準未達成(図1-1、図1-2)
- 第7期湖沼水質保全計画の目標水質について、いずれの項目も未達成。
- 平成22～24年度に3年連続して大発生したアオコは発生はなかった。
- アオコの大発生がなかったのは、一年をとって湖内が比較的高めの塩分で推移したことが理由の1つと考えられる。

図1-2. 宍道湖の環境基準点の測定結果

単位: mg/l

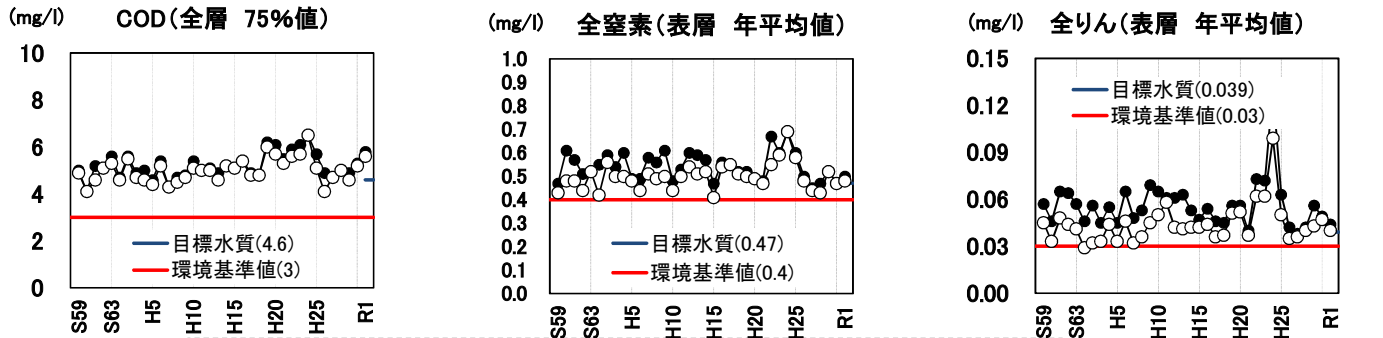
図1-1. 宍道湖の測定地点図



(2) 経年変化について

- COD及び全窒素は、最高地点、湖心ともに昨年度より上昇したものの、過去の変動の範囲内であった。
- 全りんは、平成22～24年度は高めで推移していたが、平成25年度以降低下し、水質目標値付近の値となっている。

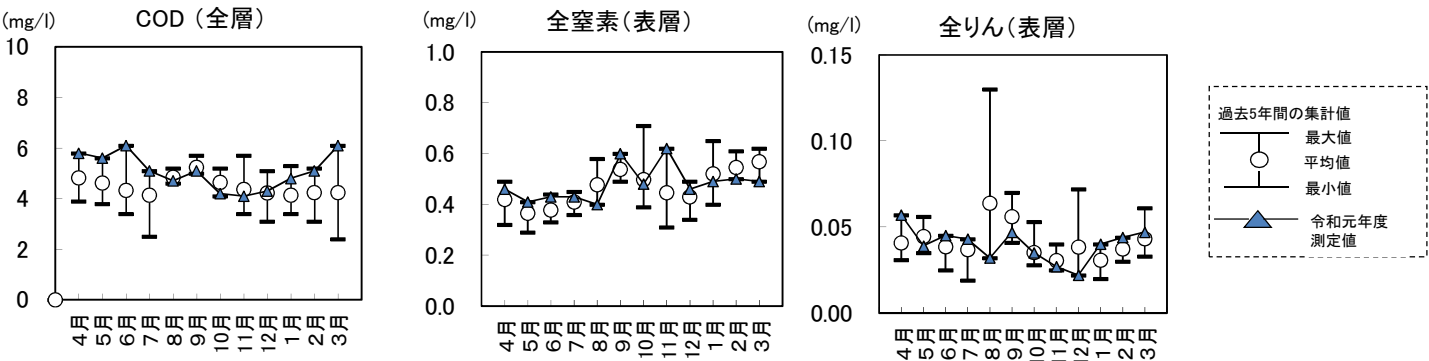
図1-3. 宍道湖の水質の経年変化



備考:「最高値」とは、環境基準点のうち、各年度において最も高い地点の値。

【参考1】経月変化(湖心 S-3)

図. 宍道湖湖心における令和元年度水質測定値の経月変化



【参考2】令和元年度の気象状況

- 年平均気温(松江)は16.1℃で、平年値(14.9℃)より高かった。
- 年間降水量(松江)は1563.5mmで、平年値(1787.2mm)より少なかった。
- 年間日照時間(松江)は1800.2時間で、平年値(1696.2時間)より多かった。

2. 長期ビジョンの実現に向けた指標について

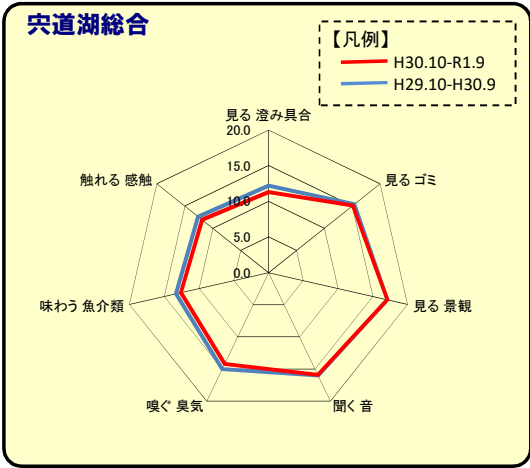
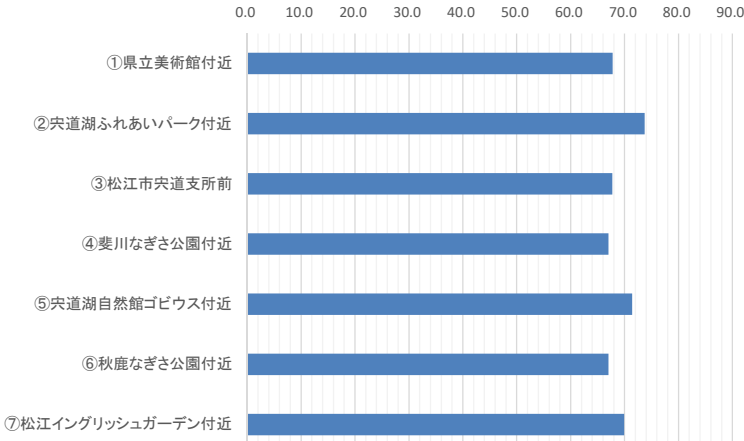
(1) 五感による湖沼環境調査結果について

- 住民に親しみやすく分かりやすい環境指標として「五感による湖沼環境調査」を7地点で実施（図3-1）
- 平成30年10月～令和元年9月期は地域住民がモニターとして35名、4団体が参加
- 平成30年10月～令和元年9月期は平均が69.5点、目標とする80点以上の地点はなかった
- 経年変化を見ると、得点は概ね横ばい

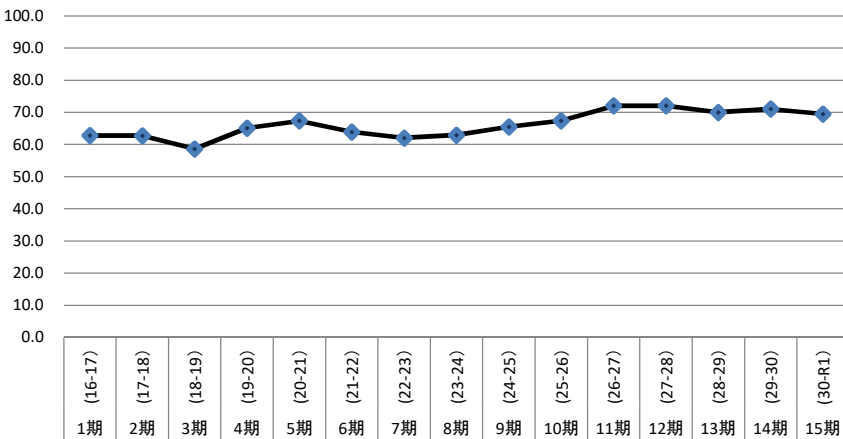
図3-1 調査地点



各地点の得点（期間平均値）



五感指数の経年変化（中央湖総合）



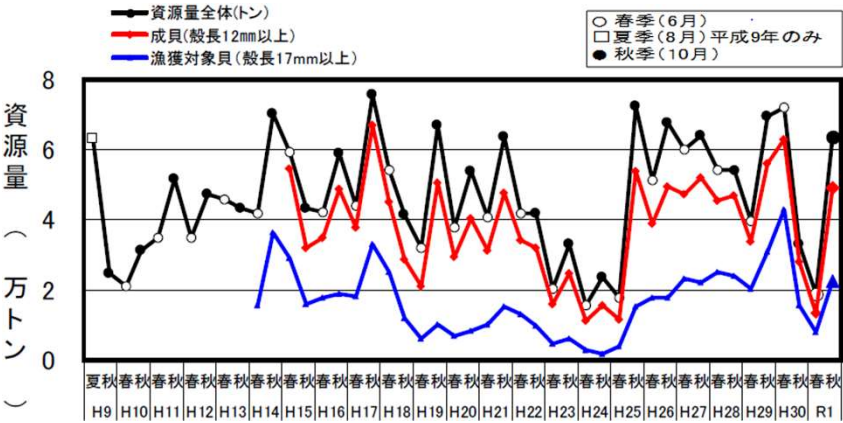
■五感による湖沼環境ランク表

合計点数	ランク	評価内容
80点以上	A	おおむね良好で親しみやすい環境にあると感じられる。
50点～79点	B	やや気になる面があるが、ますます良好な環境であると感じられる。
49点以下	C	快適さに欠け、親しみにくい環境にあると感じられる。

(2) 生物生息環境による評価について

○中央湖の象徴的存在であるシジミ(ヤマトシジミ)をはじめとする汽水域の生物が安定的・持続的に生息するような生物生息環境を目指す

【参考3】中央湖のヤマトシジミの資源量の推移



3. 湖沼水質保全計画の進捗状況について

水質改善に取り組む為、平成元年から湖沼水質保全計画を定め、国、県、関係市町、県民、企業及びNPO等が連携して、各種施策を推進している。第7期湖沼水質保全計画(R1～R5年度)において、令和5年度までに達成すべき目標を定めている各種施策は、概ね計画どおりに進捗している。

図3-1. 生活排水処理施設の整備状況

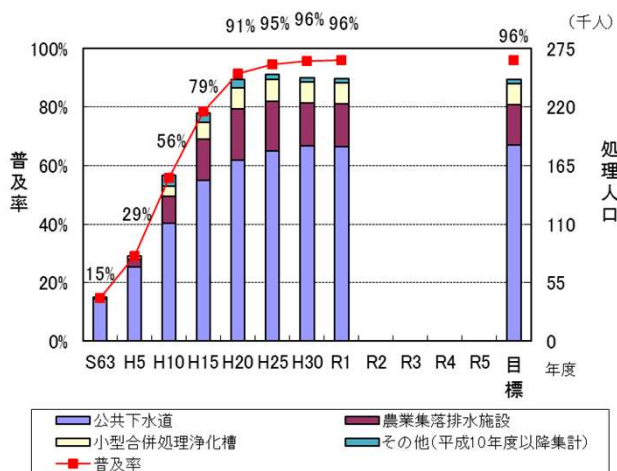
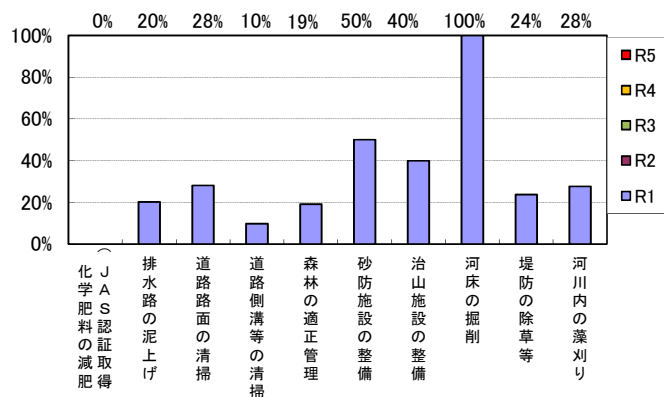


図3-2. 各種施策の進捗状況

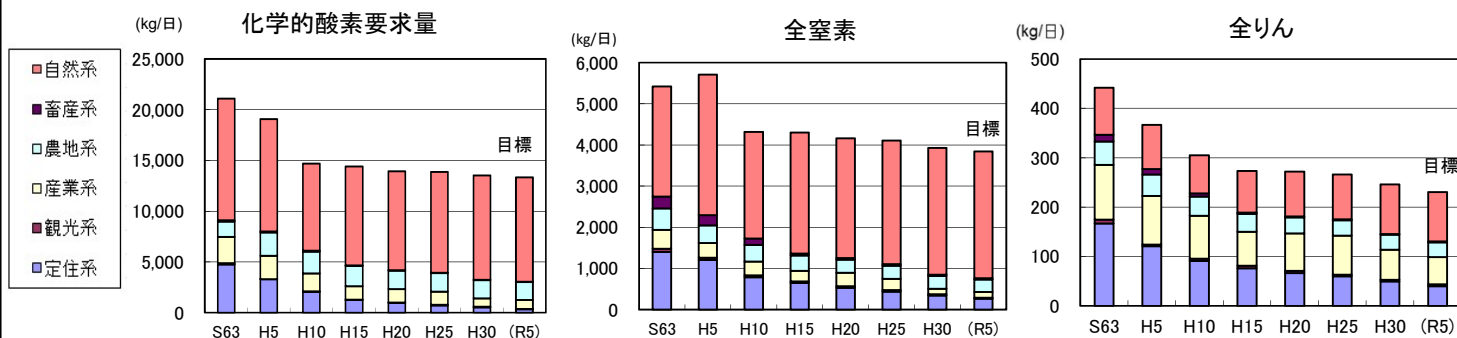
(注1)



注1) 令和5年度までの累計目標事業量を100%とする。

参考

参考3-1. 矢道湖に流入する汚濁負荷量の推移



参考3-2. 矢道湖に流入する主な河川(斐伊川、山居川)の水質

